



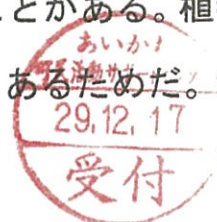
<N0191>

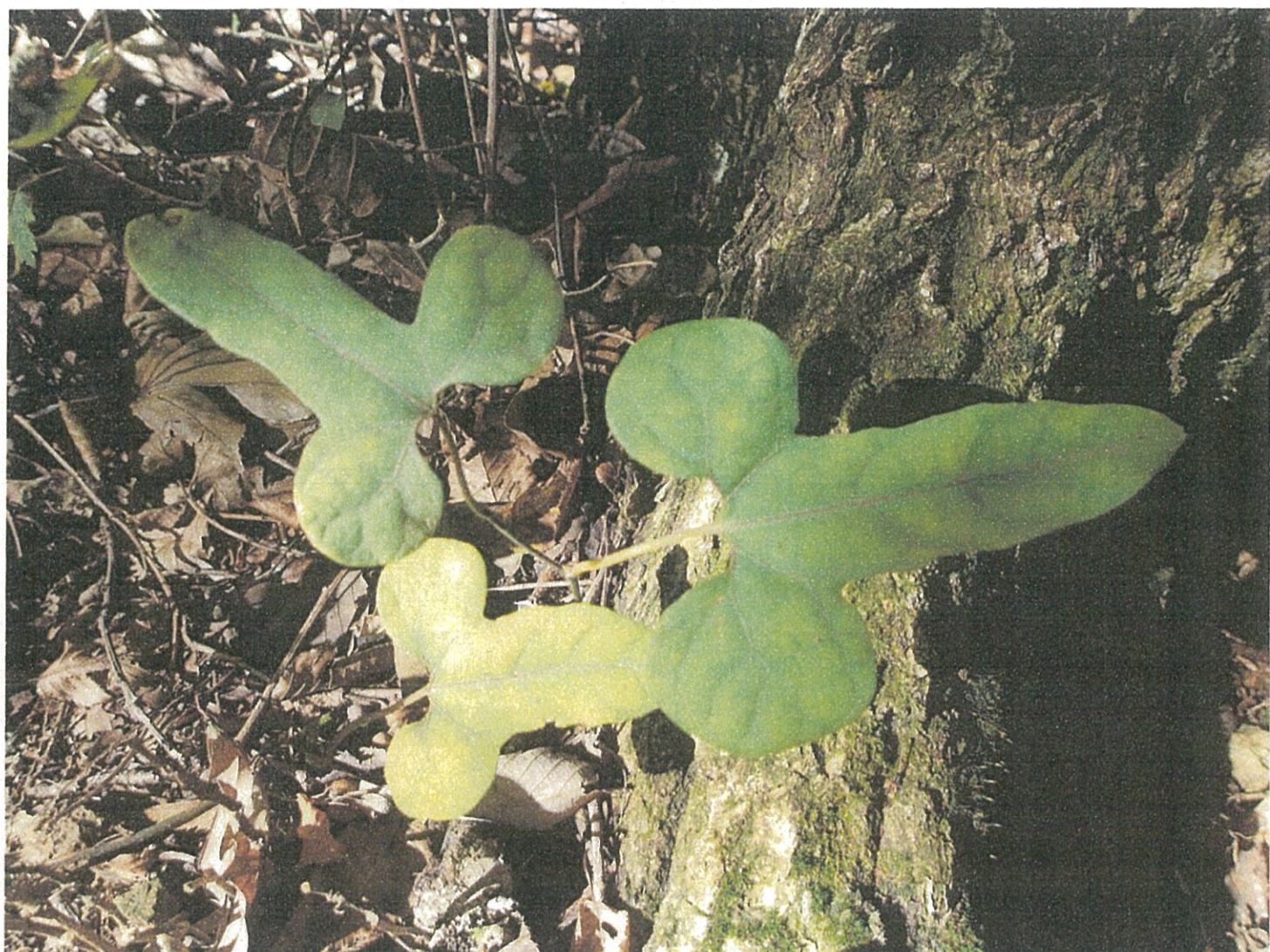
### マルバノホロシ（丸葉保呂之）

マルバとは葉の鋸歯（縁のギザギザ）や切れ込みがないことを指している。ホロシは古語で、ヒヨドリジョウゴのことである。すなわち、ヒヨドリジョウゴに似た葉の切れ込みがない植物ということになる。

冬枯れの野山で赤くみずみずしい光沢のある実のつる植物を見かけたら、ヒヨドリジョウゴかマルバノホロシである。特に雪の後は真っ白な世界に真っ赤な実が映え、宝物を見つけたような気分になる。

液果（えきか＝肉質で液汁が多い実）は色もサイズもヒヨドリ好みかと思いきや、野鳥たちには敬遠されていて餌の乏しい厳冬期でも啄ばまれずに残っていることがある。植物の知恵の一つで、一度に食べつくされないように実に適度な毒がまぶしてあるためだ。ナス科のつる性多年草。





<N0190>

### タンザワウマノスズクサ (丹沢馬鈴草)

タンザワウマノスズクサは、丹沢で見出され 1989 年に命名された植物で、それまではオオバウマノスズクサの一系とされていた。神奈川県内の地名を冠する植物名は珍しく、他にサガミニガナやナカツカナウツギなど数えるほどしかない。その内の一つだ。

オオバウマノスズクサとの違いは、葉の裏の葉脈上の毛や花筒内部の色や模様などを見比べないとわからない。が、若い葉の形に注目すると、タンザワウマノスズクサの葉には切れ込みがありミッキーマウスのような特徴的な形をしている。

厚木から県北にかけての山地の林内には両種が自生している。山歩きの折にはぜひ、ミッキーマウスの葉を探してみたい。ウマノスズクサ科のつる性植物。

